道標ない旅

～「自立」と「共生」を目指して～

平成31年4月16日（第2号）

校長　益田　孝彦　875－9494

◆◆　平成３１年度 南郷中学校 教育基本方針　は、概ね昨年度のものを継承します。　◆◆

今年度の重点目標は●と**太字**で示したものです。新たに重点目標に据えたものもありますが、昨年度達成が不十分だったものは、今年度も引き続き重点目標に据え、達成を目指します。

１　学校教育目標（育てたい子どもの姿）

「自立」と「共生」
　○自立心をはぐくむ
　　【自ら考え行動できる生徒】【自分を律することのできる生徒】
　○共生力を高める
　　【学校という社会で、様々なタイプの級友の中に居場所を獲得できる生徒】
　　【互いに認め合い、集団としての達成感を通して、人との関わりの中に喜びを見いだせる生徒】

〈目指す生徒像〉
　○主体的に行動する生徒
　○思いやりがあり、心身ともに健康な生徒
　○自らに誇りを持つ生徒
〈目指す学校像〉
　○認め合い高め合う学校
　○安心・安全に学ぶことのできる学校
　○一人ひとりの生徒を大切にする学校
　○保護者・地域から信頼され、ともに歩む学校
〈目指す教職員像〉
　○情熱を持ち、生徒の気持ちを捉え・寄り添い、共に活動する教師（熱意）
　●楽しく分かる授業を心がけ、授業改善に努める教師（力量）
　○厳しさと温かさを備えて、生徒一人ひとりの個性や可能性を伸ばす教師（信頼）

２　学校経営の基本方針

（１）新しい時代に必要な資質・能力を育む学校
　○一人ひとりの教員が「授業を分かりやすくしっかり教える」とともに「基礎基本の定着」「確かな学力の定着」に努める。
　○日々の実践、個々の研鑽・授業研究等を通して、指導方法の工夫・改善を図り教科指導力（授業力）を高めるよう努める。
　○教育課程全般を通して、言語活動の充実を図り、自分の考えが適切且つ端的に表現できる生徒の育成に努める。
　●「主体的・対話的で深い学び」となる学び方を生徒が身に付けられるように努める。
　○「質問しやすい工夫」「学習が停滞している生徒の補習」「家庭学習の定着」など具体的な手立てを学年ごとに計画・実行する。
　●「特別な教科　道徳」の定着を学校・学年で目指していく。
　○学級活動・委員会活動・行事・部活動等においても、活動・活躍の機会を積極的に設定し能力の育成を図るとともに効率化に努める。
　○幅広い学習資料、学習資源や情報機器を取り入れた授業にも取り組むように努めていく。

（２）豊かな心を育み、信頼でつながった学校
　○「自立」と「共生」を心にとめて成長していく生徒を育てていけるように努める。
　○全職員による生徒理解の徹底し、一人ひとりの生徒の変化を見逃さず、個々の成長の支援に努める。
　○校内支援委員会の充実を図り情報を共有化し、全職員が立場に応じて適切な指導にあたる。
　●信頼を通して、相談しやすい教師・学校となっていくように努める。
　●日頃より、各教職員が、「自身の後ろ姿」で生徒を教育していることをしっかりと踏まえていく。
　○生徒・保護者が心理的に安心できる環境づくりに努め、教育相談環境の向上を図る。
　○生徒や地域が、そして教職員自身が希望を持てる学校づくりに努める。

（３）地域を愛し、地域から愛される学校

●職員全員が「チーム南郷」となって教育活動に取り組むように努める。
○地域に開かれた学校を目指し、地域教育力・地域資源の積極的な活用に努める。
★「ＦＧＣ はやまびと(仮称)」に積極的に取り組むことによって、葉山町への愛着心を培わせる。
●学校評議員・ＰＴＡ・中学校区懇話会等を通し、地域との連携を深めるとともに関係者からの評価を受け止め、学校改善に活かす。
★学校関係者評価委員会・中学校区教育懇話会・避難所運営委員会等の活動を通し、コミュニティスクール化への準備を進めていく。
○学校安全に関し、保護者・地域住民との協力支援体制の構築に努める。
○生徒にとって学校行事が意義のあるものになるよう努める。

３　今年度の重点目標

（１）「主体的・対話的で深い学び」となる学び方を生徒が身に付けられるように努める。
（２）「特別な教科　道徳」の定着を学校・学年で目指していく。
（３）日頃より､各教職員が､「自身の後ろ姿｣で生徒を教育していることをしっかりと踏まえていく。
（４）信頼を通して、相談しやすい教師・学校となっていくように努める。
（５）職員全員が「チーム南郷」となって教育活動に取り組むように努める。
（６）学校評議員・ＰＴＡ・中学校区懇話会等を通し、地域との連携を深めるとともに関係者からの評価を受け止め、学校改善に活かす。
（７）楽しく分かる授業を心がけ、授業改善に努める教師（力量）を意識する。

◆◆　上記の今年度方針で関心を集めたのが「コミュニティスクール」という言葉でした。　◆◆

皆さんもあまりなじみのない言葉だと思います。今年度から教育委員会と協働して、地域の方々への周知を図りながら、準備を進めていこうと思います。これから何回か学校だよりで紹介していきます。
ここでは「東京におけるコミュニティスクールに関する研究」から、その特徴を紹介します。

【基礎研究から、コミュニティスクールが備える要件を次のようにとらえた。】

①地域住民のニーズに基づいて、地域が学校運営に参画する組織をもっていること
②管理職や教員、学校運営、教育活動等に対する外部からの評価システムを導入していること
③学校の教育方針や教育内容等が周知されており、保護者等から選択される力を備えていること
④法制度の整備により、学校の管理運営の独自性が確保されるような裁量権をもっていること

【コミュニティスクールと地域とのかかわり方】
コミュニティスクールは、地域特有の実態や地域住民の固有のニーズが基盤となり、地域や保護者との関係の上に学校運営がなされるところに大きな特徴がある。
コミュニティスクールと地域とのかかわり方は、「参画」・「融合」・「共生」などがある。

①参画
「地域住民が授業参観・学校行事に参加するだけのかかわりにとどまらず、教育活動や学校運営に参画していること」: これからは、トップダウン型でなく、地域が主体となり地域のニーズから立ち上がるボトムアップ型の教育制度や学校運営等が求められており、地域住民が学校教育に「参画」するという側面をもつことが基本となる。
→地域住民が学校運営に積極的に参加していくことが期待される姿です。

②融合
「学校と地域がそれぞれの教育力を生かし合い、子どもや地域住民が共に有用感や満足感をもっていること」: これからの「連携」においては、地域との「融合」にまで深めていくことが大切である。こうした学校では、校長が子どもの実態や地域の課題をとらえて設定した学校経営方針や教育方針を学校と地域が共通理解し、それぞれが教育力を発揮し合いながら、一体となって教育活動を展開している。このような活動を通して、子どもと地域住民が互いに認め合い、それぞれが有用感や満足感を感じるという「融合」の側面をもつことも重要となる。
→学校と地域が共通理解し、互いに認め合い教育力を融合していくことが期待されています。

③共生
「学校と地域の双方にとって意義のある活動が行われ、それぞれが地域の一員として学び、育っていること」: 児童生徒と地域住民とのかかわりを通して、双方が生きがいをもち、かかわった一人一人が地域の形成者として地域コミュニティを支えていることがおこり、さらに学校の教育力そのものが強化されている。「参画「融合」にとどまらず、子どもたちとその成長を見守る地域の大人が共に地域の一員として学び、育っていくという「共生」の側面をもつことが不可欠である。
→地域も学ぶ一員として、共に育っていくことが期待されています。

･･･ちょっと難しいですよね。これからより分かりやすい表現を取り入れて、紹介していきたいと思います。